

令和3年度 笠松小学校 道徳教育研究構想

児童の実態

- ◎素直、思いやり→A[正直誠実] B[思いやり]
- ◎動植物の生命の尊重→D[生命の尊重]
- ◎責任感→A[自由と責任]
- ◎あいさつ→B[礼儀]
- マイノリティへの配慮→C[公平、公正、社会正義]
- ▲自己受容に弱さ、他律的→A[自律]
- ▲向上心・たくましさに弱さ→A[努力と強い意志]
- ▲創意工夫に弱さ

学校の教育目標

みんなのしあわせを考えて
豊かな心で ねばり強く やりぬく子
学校と地域の共通目標理念
「自立・共生・貢献」
夢が育つ学校 夢が実現する地域

道徳科の新設

- ・「考え、議論する」道徳教育への質的転換
- ・教科書
- ・評価

道徳実践の場(3つの自慢)

- ・気持ちのよいあいさつ B[礼儀]
- ・力いっぱい掃除 C[勤労]
- ・根気よく生き物の世話 D[生命の尊さ]

道徳教育の重点目標

A[努力と強い意志] B[礼儀] C[公平、公正、社会正義]

研究主題等

研究主題

自己を見つめ、自らよりよい生き方を求め、実践する子

主題設定の理由

道徳の時間と他の教育活動を関連付けて道徳的諸価値を意図的に指導できるよう「総合単元プログラム」を開発して、成果を上げている。また、実践の場を明確にすることで、道徳性を養い、子ども自身に実感をもつまでに成長した。そのよさと児童の実態を踏まえ、主体的・対話的で深い学びを通して、道徳性を高め、実践する子を育む道徳教育を目指す。

めざす児童の姿

- ・分け隔てなく、みんなを思いやり、最後まで責任をもってやりぬく子
- ・自分の夢に向かって、強い意志をもって、ねばり強くやりぬく子

仮説1

「総合単元プログラム」による意図的な指導に加え、「道徳性実践の場」における継続的な指導を行い、目標に向かって頑張っている姿を、互いに認め合う体験・交流活動の充実を図れば、自己受容し、自己の成長を実感して、よりよい生き方を実践する子が育つだろう。

仮説2

「総合単元プログラム」を通して得られた児童理解をもとに、指導の方向性を明らかにし、道徳科の授業においては、発問の工夫を行い、自分との関わりの中で児童が多面的・多角的に道徳的価値を考えることができれば、自己をより深く見つめることができるだろう。

研究内容

研究内容Ⅰ

道徳的諸価値を計画的・発展的に指導し、道徳的実践力を育むための総合単元プログラムの在り方

- (1) 道徳の時間と他の教育活動を関連付けた「総合単元プログラム」の実践
- (2) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を地域で主体的に発揮できる効果的な連携の在り方の工夫

研究内容Ⅱ

道徳性を育成する道徳科授業における指導の工夫

- (1) 主体的に価値を追求していくための導入の工夫
- (2) 多面的・多角的に道徳的価値を追求していく指導の工夫
- (3) より深く自己を見つめやすくする工夫

研究組織

研究推進委員会

低学年部

中学年部

高・特別支援部

研究授業提案

指導案検討

総合単元プログラムの開発

体験活動の充実